



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月13日

上場会社名 株式会社GENOVA 上場取引所 東
 コード番号 9341 URL https://genova.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平瀬 智樹
 問合せ先責任者(役職名) 取締役執行役員兼財務部長 (氏名) 上田 明尚 (TEL) 03(5766)1820
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家及び個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日~2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	7,930	4.2	△23	—	△3	—	50	△95.3
2025年3月期第3四半期	7,611	24.7	1,626	10.6	1,612	9.3	1,086	14.6

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 51百万円(△95.3%) 2025年3月期第3四半期 1,086百万円(14.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	2.93	2.90
2025年3月期第3四半期	61.03	60.50

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	9,890	6,637	61.6
2025年3月期	8,526	6,998	76.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 6,094百万円 2025年3月期 6,555百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,332	13.3	477	△76.5	482	△76.1	417	△70.5	24.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社(社名) 株式会社ASANO 、除外 1社(社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期3Q	17,834,600株	2025年3月期	17,806,600株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	500,068株	2025年3月期	500,068株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期3Q	17,320,176株	2025年3月期3Q	17,793,304株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで判断したものであり、リスクや不確定な要素等の要因が含まれており、実際の成果や業績等は記載の見通しとは異なる可能性がございます。なお、上記業績予想に関する事項は、【添付資料】4ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2026年2月13日(金)に機関投資家及び個人投資家向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載及びTDnetに開示する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(第3四半期連結累計期間)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(重要な後発事象)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境や企業収益の改善に支えられつつ、個人消費や設備投資も全体として持ち直しの動きを示したことから、景気は概ね緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、米国の通商政策による影響が一部産業にみられることや継続的な物価上昇が家計消費に与える負担等が下押しリスクとして意識されるとともに、金融資本市場の変動にも注視が必要な状況が続いております。

このような経済環境の下、当第3四半期連結累計期間においては、当社の主力事業であるメディカルプラットフォーム事業の「Medical DOC」は前連結会計年度の第3四半期からPV数が踊り場になっているトレンドは引き続き変わらず、新規と既存への販売は共に課題が残っている局面であります。PV数が横ばい圏で推移している一方で、当社の医療関連記事はChatGPTを含む生成AIに参照されるケースが増えており、生成AIの回答からMedical DOCのページにランディングする件数は一定数あり、今後も増加傾向になると考えております。それは当社のMedical DOC内では医師や医療アドバイザーが監修している信頼性の高い記事であることが要因であり、重度の病気に対する記事も多く含まれていることから、今後は生成AIとの共存が可能になると考えております。

当第3四半期連結累計期間においては、スマートクリニック事業において、自動受付精算機の「NOMOCaシリーズ」や「NOMOCa AI chat」などの主力ソリューションは、医療機関から引き続き高い評価を受けております。当第3四半期連結累計期間において新卒50名が徐々に戦力化し始めていることもあり、計画の売上で推移しております。

前連結会計年度の第3四半期に新サービスとしてローンチした、AI電話自動応答サービス「NOMOCa AI call」については、前連結会計年度の第4四半期からサービスを開始し、サービスの計画・実行・評価・改善（PDCA）のサイクルを引き続き回しております。当サービスは、患者さんからのお問い合わせ（診療時間や休診日など）に対して対話型AIが、従来のIVRのような機械音声とは異なり、聞き取りやすく抑揚がある、人に近い音声で案内します。

これにより、導入頂いたクリニック等においては電話対応が自動化され、「電話業務」にかかっていた時間やコストを削減でき、スタッフの業務効率化が実現可能となりました。さらに、患者さんの利便性向上とサービスレベルの改善も期待でき、満足度の向上にもつながるサービスとなっております。本サービスは、当社のスマートクリニック事業が2024年年初から新たに掲げたビジョンである「クリニックオートメーションによる患者さんの利便性・クリニックの生産性最大化」に沿ったものであり、新規および既存のお客様から継続的に反響を得られるものと確信しております。具体的には導入件数・削減時間ともに継続的な成長が確認できています。導入件数は、前年同四半期までの93件から、累計144件まで拡大しました。それに伴い、電話対応の削減時間も月間1,400時間規模へと拡大しています。

なお、当連結会計年度においては、事業譲渡契約によりグループインした子会社の株式会社ASANOが2025年7月1日から事業を開始いたしました。当子会社は「歯科医療の今と未来を繋ぐ」をミッションとして、歯科医療用機器・器材・材料・薬品等の開発・販売、歯科医院用クラウドサービスの開発・販売の2事業を主に行っております。当社として当子会社の事業を開始するにあたり、最適なサプライチェーンの構築とグループのマーケティング・DX領域との連携により、医療現場の課題解決と新たな価値創出の貢献を目指しております。当事業においては、従前民事再生を申請していたことから、当第3四半期連結累計期間においては、主要取引先との取引再開に時間を割いております。一方で事業計画は保守的に見積もっていることから想定通りの進捗で推移しております。

新たな子会社のグループインも含め、人的資本経営のより重要性が問われる現在ですが、営業人員一人当たりの生産性も改善し、親子会社間でも営業とサービスが連携しながら取り組みを強化しております。このような様々な取り組みは、当社グループの主力事業のオーガニック成長に貢献し、また、非連続的な成長の創出にも積極的に取り組むため、新事業・新サービスに向けた事業提携も引き続き検討を進めております。

セグメントごとの経営成績を示すと、以下のとおりです。

従来、当社グループの報告セグメントは「メディカルプラットフォーム事業」、「スマートクリニック事業」、「その他」の3つとしておりましたが、株式会社ASANOの設立及び事業譲受に伴い、第2四半期連結会計期間より事業セグメントの区分方法の見直しを行うことといたしました。その結果、当社の報告セグメントは、「メディカルプラットフォーム事業」、「スマートクリニック事業」、「歯科流通事業」、「DX事業」、「その他」の5つへ変更しております。

なお、2025年7月1日付で株式会社ASANOを子会社化したため、歯科流通事業及びDX事業の前年同期比較は記載しておりません。

① メディカルプラットフォーム事業

当事業では、超高齢化社会を迎えた現代の日本において健康寿命増進という社会課題を解決すべく、利用者の皆様により一層適切な情報へアクセスいただくことを目的としており、医療メディアであるMedical DOCを中心に、医療機関と患者さんへの適切な医療情報のマッチングを引き続き実現しております。当メディアでは、月間PV数が直近四半期横ばい圏で推移しており、10月から12月の3カ月平均では1,412万超のPV数にとどまりました。

利用者に求められるコンテンツの掲載が当メディアでは実現できていながらも、GoogleアルゴリズムのアップデートによるSEOに対する影響や、ChatGPTやその他生成AIの進化に伴い、検索の形態に変化が生じつつあると考え、月間PV数の増加に対する向かい風があることは否めません。しかしながら、お客様のクリニックでは集患ニーズは依然として高く、当第3四半期連結累計期間において契約件数は3,284件となりました。

今までの新たな取り組みも含め、セグメント売上高は3,507,202千円(前年同四半期比26.9%減)、セグメント利益は1,111,394千円(前年同四半期比55.2%減)となりました。

② スマートクリニック事業

スマートクリニック事業では、新たに掲げたビジョンである「クリニックオートメーションによる患者さんの利便性・クリニックの生産性最大化」を軸に、主に、クリニックの業務効率化を進め、医療人材不足への対応、不要な医療事務業務の撲滅、患者さんの待ち時間短縮を目指し、サービス開発を進めております。受付業務の省力化・電話件数の削減を目的とした「NOMOCa AI chat」の販売に続き、前連結会計年度の第3四半期においては、電話対応を完全自動化させる「NOMOCa AI call」の提供を開始いたしました。当サービスの提供は、ChatとCallが共にあることにより、クリニックの最も負荷が多いと考えられる受付業務である「電話業務」にかかる時間やコストを削減し、医療DX化により、ヒトからAIへタスクシフトすることでスタッフに余裕を生み出し、さらには患者さんの利便性を向上することが可能となる取り組みになります。前連結会計年度の第3四半期から開始した無償トライアルを含め、現時点では既存客を含めてサービスをご利用いただき、サービスの計画・実行・評価・改善（PDCA）のサイクルを引き続き回しております。現時点では無償と有償含めて144件の契約を締結させていただき、サービスの提供を進めております。当連結会計年度においては、主力サービスに成長するよう開発を進めております。

今後も医療機関の事務業務量の課題を解決するとともに、「多くの待ち時間と短い診察時間」という患者さんの抱える社会的不満を医療DXの推進を通じて解決することを引き続き目指します。

この結果、セグメント売上高は2,320,521千円(前年同四半期比3.2%減)、セグメント利益は291,749千円(前年同四半期比38.1%減)となりました。

③ 歯科流通事業

当社子会社ASANOは、新ビジョン「歯科医療の今と未来を繋ぐ」のもと、卸売業を成長エンジンの一つに据え、DX事業との連動で収益性と持続成長性の両立を進めております。

卸売業では、海外先進メーカーと国内大手とのアライアンスを一段と深化させ、歯科用CT、口腔内スキャナー、AI画像診断といったデジタル診断、3DプリンターやCAD/CAM、治療用レーザー等の精密治療機器、予防・メンテナンス機器まで高付加価値領域を拡充し、医院の診断精度・治療効率・患者負担軽減を同時実現しています。単なる機器納入に留まらず、デジタル導入に伴うワークフロー再設計、スタッフ研修、保守・校正を含む長期契約、ファイナンス提案、開業支援をパッケージ化しており、網羅的なソリューションを提供しております。これにより初期負担を抑えつつ投資回収を明確化し、消耗材・保守を含む継続収益を強化、製品ミックスの高付加価値化と在庫回転の改善を同時に進めました。

また、仕入価格・物流費の変動には複線調達と価格最適化で対応し、為替リスクと供給網の不確実性を抑制しております。加えて、アフターメンテナンスの即応体制を再構築し、稼働率向上と顧客満足の向上がクロスセル・リピートに寄与しています。

当社グループとしては、当社のマーケティングオートメーションとインサイドセールスを活用し、見込み顧客の質と量の改善を図っております。案件化から受注、保守契約・クラウドサービス契約への展開までパイプライン管理を高度化し、CACの早期回収に繋がっています。今後もアライアンス拡大、価格・在庫の精緻運営、プロダクト・サ

サービスの連携強化により、現場で選ばれる提案力と安定したキャッシュ・フローを確立し、中長期の成長機会を的確に捉えてまいります。

この結果、セグメント売上高は1,536,477千円、セグメント損失は127,570千円となりました。

④ DX事業

DX事業では医療機関向けのDXソリューションの提供を行っております。具体的には、クラウド型のカルテサービス「カルテクラウド」の導入や、予約管理などのクラウド型サービスを提供し、LINEと連携している「クリニッククラウドGR」の導入を加速しております。予約の完全自動化で電話・受付業務を大幅に削減し、24時間の予約・変更を可能にすることで患者利便性を高めています。導入先では、業務内容の可視化テンプレートを用いて作業標準化を支援し、権限設計・監査ログにより在宅勤務の可否判断と遠隔運用の統制を担保し、オンボーディングとeラーニングを強化して導入担当者の不安を解消することで、解約率の低位安定を促進しています。

卸売業の広範な顧客網とDXのクラウドサービスを一体提案することで導入障壁を下げ、LTVの最大化とストック収益の積み上げを実現しています。

この結果、セグメント売上高は203,847千円、セグメント利益は53,690千円となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は7,930,816千円(前年同四半期比4.2%増)となり、営業損失は23,666千円(前年同四半期は営業利益1,626,432千円)、経常損失は3,013千円(前年同四半期は経常利益1,612,511千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は50,791千円(前年同四半期比95.3%減)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ1,363,924千円増加し、9,890,121千円となりました。これは主にのれんが1,050,932千円増加したこと、繰延税金資産が448,639千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,725,052千円増加し、3,252,592千円となりました。これは主に長期借入金が増加したこと、前受収益が増加したこと、長期前受収益が増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ361,127千円減少し、6,637,528千円となりました。これは主に新株予約権が増加したこと、親会社株主に帰属する四半期純利益50,791千円を計上した一方、剰余金の配当で519,195千円減少したことにより、利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2025年10月15日の「第2四半期(中間期)業績予想(連結)と実績値との差異および通期業績予想(連結)の修正並びに役員報酬の減額に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,872,171	5,261,113
売掛金	1,613,745	1,157,800
その他	302,792	832,875
貸倒引当金	△61,078	△25,976
流動資産合計	7,727,631	7,225,813
固定資産		
有形固定資産	200,821	431,922
無形固定資産		
のれん	—	1,050,932
その他	1,957	18,425
無形固定資産合計	1,957	1,069,357
投資その他の資産		
繰延税金資産	218,598	667,238
その他	377,186	495,790
投資その他の資産合計	595,784	1,163,028
固定資産合計	798,564	2,664,307
資産合計	8,526,196	9,890,121

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	160,282	369,572
1年内返済予定の長期借入金	20,835	117,720
契約負債	226,215	429,892
未払法人税等	345,338	—
前受収益	—	271,121
賞与引当金	—	18,125
その他	736,061	690,110
流動負債合計	1,488,732	1,896,541
固定負債		
長期借入金	—	647,420
退職給付に係る負債	—	118,122
長期前受収益	—	556,270
その他	38,806	34,237
固定負債合計	38,806	1,356,050
負債合計	1,527,539	3,252,592
純資産の部		
株主資本		
資本金	774,486	778,088
資本剰余金	674,486	678,088
利益剰余金	5,744,591	5,276,187
自己株式	△640,758	△640,758
株主資本合計	6,552,805	6,091,604
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,492	3,073
その他の包括利益累計額合計	2,492	3,073
新株予約権	443,358	542,850
純資産合計	6,998,656	6,637,528
負債純資産合計	8,526,196	9,890,121

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	7,611,896	7,930,816
売上原価	1,973,990	3,482,630
売上総利益	5,637,905	4,448,185
販売費及び一般管理費	4,011,473	4,471,851
営業利益又は営業損失(△)	1,626,432	△23,666
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	922	7,310
解約金収入	879	4,081
受取手数料	4,514	7,048
その他	339	5,463
営業外収益合計	6,655	23,903
営業外費用		
支払利息	479	3,250
市場変更費用	18,000	—
その他	2,097	0
営業外費用合計	20,576	3,251
経常利益又は経常損失(△)	1,612,511	△3,013
特別利益		
固定資産売却益	—	3,686
受取損害賠償金	—	74,160
特別利益合計	—	77,846
税金等調整前四半期純利益	1,612,511	74,833
法人税、住民税及び事業税	577,617	47,110
法人税等調整額	△51,184	△23,068
法人税等合計	526,432	24,041
四半期純利益	1,086,078	50,791
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,086,078	50,791

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,086,078	50,791
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	358	580
その他の包括利益合計	358	580
四半期包括利益	1,086,437	51,372
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,086,437	51,372

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ASANOを連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2, 3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディカル プラットフォーム 事業	スマート クリニック 事業	歯科 流通 事業	DX事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	4,796,311	2,396,054	—	—	7,192,365	419,530	7,611,896	—	7,611,896
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	4,796,311	2,396,054	—	—	7,192,365	419,530	7,611,896	—	7,611,896
セグメント利益	2,479,226	471,141	—	—	2,950,368	89,615	3,039,983	△1,413,550	1,626,432

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、WEB制作・保守事業、コンサルティング事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△1,413,550千円は報告セグメントに配分していない全社共通費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2, 3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディカル プラットフォーム 事業	スマート クリニック 事業	歯科 流通 事業	DX事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	3,507,202	2,320,521	1,536,477	203,847	7,568,048	362,767	7,930,816	—	7,930,816
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	3,507,202	2,320,521	1,536,477	203,847	7,568,048	362,767	7,930,816	—	7,930,816
セグメント利益 又は セグメント損失 (△)	1,111,394	291,749	△127,570	53,690	1,329,264	69,887	1,399,151	△1,422,817	△23,666

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、WEB制作・保守事業、コンサルティング事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△1,422,817千円は報告セグメントに配分していない全社共通費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの追加)

第2四半期連結会計期間より株式会社ASANOが連結子会社となったことに伴い、報告セグメント「歯科流通事業」、「DX事業」を追加しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分に基づき作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変更)

「歯科流通事業」セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間より株式会社ASANOを連結範囲に含めたことにより、のれんが1,050,932千円発生しております。

なお、取得原価の配分が完了していないため、当四半期連結会計期間末において暫定的な会計処理を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、519,195千円の剰余金の配当を行っております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2026年2月13日開催の取締役会において、2026年4月1日を効力発生日として、当社を吸収合併存続会社、当社の連結子会社である株式会社GENOVA DESIGNを吸収合併消滅会社とする吸収合併を行うことを決議し、2026年2月13日付で合併契約を締結いたしました。

(1) 取引の概要

① 被結合企業の名称及び事業の内容

被結合企業の名称 株式会社GENOVA DESIGN

事業の内容 Webサイトの制作及び運用保守等の業務委託

② 企業結合日

2026年4月1日(予定)

③ 企業結合の方法

当社を存続会社、株式会社GENOVA DESIGNを消滅会社とする吸収合併

④ 結合後企業の名称

株式会社GENOVA

⑤ 企業結合の目的

被合併会社である株式会社GENOVA DESIGNは、当社100%連結子会社として、当社サービスのWebデザインやコンテンツ制作等のクリエイティブ機能を担ってまいりました。この度、メディカルプラットフォーム事業と制作部門の連携をより強固にし、意思決定の迅速化およびサービス品質の向上を図るとともに、管理コストの削減により経営体制を効率化することを高めてまいります。

⑥ 本合併に係る割当ての内容

本合併は、当社による完全子会社の吸収合併であるため、本合併による新株式の発行及び金銭等の割当てはありません。

(2) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理する予定です。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	56,064千円	60,840千円
のれん償却額	－千円	38,923千円